

《学校教育目標》 求め 鍛え 高め合う

【第2次東白川村教育ビジョン 方向と具体的方策】

～少人数時代に即した、東白川ならではの授業づくり～

- ・生徒一人一人の学力を確実に高める指導
- ・ふるさととのかかわりを大切にしたい、個別探究、課題解決型の指導
- ・学力定着を支える家庭・自主学習の充実

生徒の実態 (よさ:○ 課題:●)

- 仲間と共によりよい見方や考え方、表現を求めて学び合うことができる。
- 学習規律を整え、課題に対して粘り強く取り組むことができる。
- 課題に対して、仲間と話し合っ深めたり、根拠を示しながら息の長い発言をしたりすることに弱さがある。
- 目的に応じて書く力が十分に身に付いていない。

願う生徒の姿

『多様な学びを通して、自らの考えを深めたり、思いを積極的に発信したりする姿』

東白川中学校には、「幼い頃から一緒に生活してきたからこそ、多くを語らずとも分かり合える」という支持的風土がある。反面、既成事実にとらわれ、仲間と立場の異なる意見を表出したり考えを練り合ったりすることに躊躇する姿もある。温かい仲間関係の中でありながらも、これからの現代社会をたくましく生き抜くためには、身近な事象から自らの思考力を育み、仲間との関わりの中で粘り強く追究する中で、自分の思いや考えを深め、より良い結論を導き出そうとする力が求められる。中学校卒業後、新しい環境で生活する生徒が、どんな場面でも自身の考えを表現豊かに表出する姿を強く願い、本研究の本質を求めていく。

研究主題

自分の考えを豊かに表出し、仲間と深め合う生徒の育成

研究仮説

少人数時代だからこそ生徒一人一人に手厚く指導できる利点を生かし、丁寧な実態分析を基にした、より個に焦点を当てた授業づくりを推進していくことにより、一人一人の学習の基礎的・基本的知識・技能の定着を図ることができる。また、東白川村の地域文化・歴史・慣習を取り上げたり、地域との結びつきを意識したりした指導計画、教材開発を行うことで、生徒は知的好奇心や探究意欲をもって主体的に活動に取り組むことができる。さらに、授業の導入での資料提示や、単元の終末の定着状況の確認、自主学習などにおいてタブレット端末を活用することで、そこで得た考えや思いを深めたり、自身の考えを表現豊かに発信したりできる力を身に付けることができる。

研究内容

研究内容(1) 個別探究、課題解決型の指導計画の工夫

- ・生徒一人一人が課題意識をもって取り組むことができる学習過程の工夫
- ・ふるさとに関わった教材や資料の開発とタブレット端末のメリットを生かした学習指導

研究内容(2) 一人一人の学力の定着を図る個の実態把握と個に応じた手立ての工夫

- ・付きたい力に応じたレディネステストや学習の系統性を重視した実態把握とその分析
- ・「定着状況を見届ける」ことを意識した指導過程の工夫と言語活動の充実